

1992年9月 1日 No. 5

全国一般労働組合全国協議会

編集発行人 遠藤一郎

東京都港区新橋3-21-7松本ビル

TEL 03-3434-1236

FAX 03-3433-0334

# 全国一般全国協

## 五箇の組織達成

中央執行委員長 設楽清嗣

### 未組織の組織化・中小労働運動の新しい課題に大胆に挑戦しよう!

わが全国一般全国協の第二回大会は、七月五日成功裏に終了した。

#### 大会で提起された諸課題

この大会の成功は、次のように集約出来る。

第一に、今大会を期に新たに自立労連、金属一般等の仲間たちが、わが組織に参加し、全国で一人を超える組織となった。今後さらに、中小未

組織・純中立単組の参加合流を押し進める方針が確認された。

省し、今後の方針に活かすことが確認された。

第二に、昨年十二月の結成大会以来、半年間の諸活動・諸闘争——九二春闘、国鉄闘争、反PKO闘争、各地の争議（とりわけ大鵬薬品・全学研両闘争の勝利的な解決）、組織化問題への取り組み（六・二〇討論集会）について、その積極面を評価し、不十分な側面を反

第三に、反PKO闘争、参議院選を通じて、流動と再編を迎えている労働戦線と政治情勢について、大胆に対処する方向性が確認された。

第四に、この大会が、今だ充分に取り組めていない問題として、女性組合員の組合活動への積極的参加を実現すること、さらには、原発、ゴミ、大気・海洋・河川の汚染などの環境破壊とエコロジ―問題について、もっと積極的に取り組むことなどが反省点として指摘された。

#### 十月国際会議を成功させよう

当面、アジアの労働者と連帯し、自衛隊の海外派兵に反対する十月国際会議の成功に向けて、全力を傾注しよう。そして、そのような運動の広がり、動揺する日本社会党を下から大きく流動させ、ひいては「連合」を含む労働戦線全体を再編する引き金となるであろう。

#### 反PKO・自衛隊海外派兵阻止の闘いを強化し、労働戦線・政治情勢の再編に積極的に切り込む

以上の大会の成果と問題点を踏まえて、わが労働組は、今秋から来春に向けて、労働戦線と政治情勢に大胆に切り込むことが問われている。とりわけ、PKO法に基づく自衛隊の海外派兵・カンボジアへの出兵に

対して、参議院選をとものに闘った市民グループ及び全労協と協力して、全国的な大衆運動を形成しながら反撃することは極めて重要であり、これまでの活動の成果と努力を踏まえれば、それは必ずや可能である。

いまこそ、確信をもって、自衛隊海外派兵阻止の闘いに立ち上がり、来春闘に「連合」をも積極的に巻き込む闘いの風を起こそう。



第2回定期大会・二部交流会 乾杯

# 全国協第二回定期大会

## 組合員二万名を突破・一都二府十七県に拠点確立

更なる飛躍を目指し、

全国一般全国協議会は七月五日東京にて第二回定期大会を開いた。

まず、全労協・国鉄闘

争団等から来賓あいさつを受け、経過報告・決算と自立労連、金属一般等の加盟を承認した。続いて、運動方針では、基本的

任務、組織拡大、具体的行動方針、予算を、また新役員候補を提案、全員一致でこれを選択した。

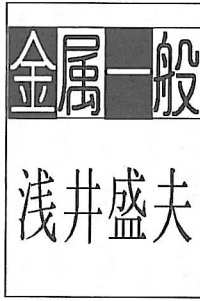
質疑応答の中では、反PKO闘争の継続、戦後補償の闘い、女性差別をなくす闘いの重要性が強調された。

学研や大鵬など協議組合の勝利報告は、万雷の拍手に迎えられた。「反PKO候補を参院へ」「国鉄闘争勝利」の特別決議と、中小労働運動再生に向けた「大会宣言」を採

択した。

新役員は別掲の通り。

新規加盟の自立労連と金属一般からの決意表明を以下に掲げる。



全国一般全国協に結集する仲間の皆さん！

去る七月五日第二回定期大会で加盟承認をいただきました「金属一般労組連絡会」です。

私たちの組織のほとんどは、旧総評全国金属の所属でしたが、「連合」をめぐる路線上の対立から「連合の傘下に入らな

かった」金属労働者です。結成時には、千名程の組織でしたが、対旧全金・対資本との闘いの中で現在は約七五〇名になっ

ています。

「全労協」との関わりは、当初から参画してまいりました。「全労協」の一員として可能な限り奮闘する決意でおりまし

た。したがって「全労協」への加盟は結成時からでした。さて、「金属一般の」機関運営ですが、

年六回(二ヵ月毎)の幹事会を中心として運営し、日常的な活動は「東西ブロック」単位で実

施してきました。もちろん「全労協」幹事会にも微力ながら幹事をおくっています。

そんな中で、全労協百万人構想が打ち出され、

同時に全国一般全国協の産別化方針と相まって呼びかけがありましたので、戦列に加わる決意をしたところです。

労戦三極構造が、いつまで続くかわかりませんが、総評労働運動を教訓化し、歴史に耐え、そして発展でき得る「全労協」を構築するために、「全

国一般全国協」の仲間とともに、その一翼を担わ

せていただきます。ともに頑張りたいと思います。



全国から、全国一般全国協に結集しておられる組合員の皆さん。今回、

全国協に加盟する事になりました私たち自立労働組合連合の紹介をさせていただきます。

自立労連の結成は、未払い残業賃金や、長時間労働への怒りと要求を掲げて一九八〇年。業種は、

菓子を中心にした食品産業ですが、加盟労組は、タカラブネ、永幸食品、菊一堂、物流の四労組、組合員数千八百名です。

各支部、分会が、埼玉、東京、静岡、愛知、京都、大阪、神戸、岡山、広島、九州の各工場、営業所に散在し、中心は関西地方です。私たち自立労連の

最大の特徴は、レギュラー、嘱託、パート組合員が同等の権利で結集している単一労組の連合体だという事です。また、

団交も組合員全員で行うなど大衆運動を基本とし、争議支援や、反戦闘争、国際連帯も行っています。

しかし、現在、タカラブネ企業の売上が悪化しており、労組的にも、当たり前前の労働運動を行いつつ、経営再建の主体としても頑張っています。

自分の為だけでなく、社会的弱者や仲間の為にも闘う団結を目指してともに闘いましょう。

### 役員一覧

執行委員長	設楽 清嗣 (東京労組)
副委員長	平賀雄次郎 (東京南部支部)
同	倉田 健治 (神奈川地連)
同	中岡 基明 (自立労連)
同	浅井 盛夫 (金属一般)
書記長	遠藤 一郎 (宮城合同)
書記次長	宮下 義則 (東京南部地協)
執行委員	大野 隆 (東京労組)
同	平田 豊 (同)
同	村石 雄二 (神奈川地連)
同	南波 正男 (自立労連)
同	山原 克二 (金属一般)
同	石本 久 (徳島)
同	黒田徳一郎 (長崎連帯支部)
同	渡辺 聡 (東京南部地協)
会計監査	宇和川道夫 (東京労組)
同	秋元 史人 (神奈川地連)

# 反PKOを軸に参議院選を闘う

反PKO法粉碎の、闘争の延長で闘われた参議院選に、全国協議会は東京選挙区内田候補・広島選挙区栗原候補を推薦し、全力投球で支援を行った。

## 栗原君子 初陣飾る ——広島発

栗原君子さんに、正確の文字が刻まれた、七月二六日午後十一時二五分、熱いものが一気にこみ上げてきた。恐らく、全国一般に結集される多くの組合員の皆さんも同じ思いをされたことと思います。

た、連合に勝った」と肩を抱き合い喜ぶ輪が幾つも出来上がった。

連合の山岸会長から、

「栗原は喉に突き刺さった小骨のようなもの」、

民社党大内委員長からは「PKOに反対している

のは、ハネあがりの一部左翼勢力だ」と罵倒されてきた。私たちは、ヒロ

シマの心を知らない連中に、小骨の痛さを思い知らせてやろうとスクラム

を組で闘った。平和に寄せるひたむきな願いは2

50, 377票の中に大きく花開いた。

今回の参議院選は自民党六九議席という庄勝・

社会党二二議席・連合全滅の惨敗であった。この

あまりにも大きな落差は、国論を二分した「PKO」問題が連合型選挙

によって争点ボケしたことであり、選挙区へ独自候補を擁立できなかったことも比例区に影響をおよぼした。連合の発足によって、労働組合の力量低下が著しい今日こそ、

労組の活性化と合わせて、地域の中に足を踏ん張って闘える体制を確立することが急務である。

## 内田応援団奮戦記

東京労組 平田

314, 291票。落選はしたものの大善戦であった。誰だ泡沫候補だなんて言った奴は!

東京北部地域での遊説日は七月十四日。高島平団地などの板橋、北の巨大団地回りと商店街。「あらあゝいい男じゃない」とからかわれておおいに

照れる内田候補。手を振っての激励に助手席から飛び出して握手。隣の遊説担当者が「こんなして握手するのははじめてだなあ」と。内田候補いよいよその気になってきた、ラストは北部の定番池袋駅東口。ピースポートの辻本清美さんも駆けつけて自民党の言う「国際貢献」の嘘っぱち、そして戦後補償について熱っぽくアピール。雨の中、人々の足が止まる。

市川房枝選挙を担った大先輩や中山千夏選挙を担った人々がいる都内の市民選対でも屈指の「伝統ある」北部選対。そこに「あってよかった全労協」傘下組合がかぶさってきて猛烈にパワーアップ。とりわけポスター貼りピラマースにと大車輪の東水芳には感服の至り。それにしてもシラケ選挙。無関心さに棘々しさが加わったかの様な人々の顔。相も変わらぬ共産党のデマ宣伝。首都東京



## 四七年目の原水禁大会 運動の転換に新しい芽

でPKO論戦をさせた社会党都本部の無責任さ。「比例区は社会党へ」と声をからす空しさ。海に向かってバカヤローと言いたいのはこっちだ!

被爆四七周年原水禁大会は今年のメイン会場となった広島大会、長崎閉会大会ともに参加者実数約二千人(現地集計)。内容的には重要な運動の転換が鮮明になった点が注目される。大会スローガンに「日本の戦争責任を明らかにし、アジア・太平洋の国々への謝罪と戦後補償を実現しよう」と明記され、始めて「戦争責任を問う」分科会が設定された。分科会に結集した約七〇名の全国代表が、八日九時半から十三時まで主として戦後補償責任について熱心に討論した(その中で天皇責任にも言及)。国と三菱を相手取って七月三十一日に長崎地裁に提出された金さん(強制連行)の「未払い賃金・賠償請求」訴訟を支援する全国一般連帯長船芳組久保田委員長の報告と訴えが会場に緊張と感動をもたらした。司会者(朝永県議)は、サハリン、台湾、三菱あわせて八本の闘いの指示と反PKOの闘いを分科会の集約とした。被爆地の4頁下段に続く

# 友誼団体 闘争紹介

## 筑豊闘争団

# 長期態勢へ始動

大原恭介



### 九州筑豊の地から 全国を見据える

二度の解雇をされた国労組合員は、全国三六の地域で新たな闘争団を結成し、筑豊闘争団はその中でも最も多くの解雇者八八名を抱える闘争団です。

筑豊は、国のエネルギー政策の転換で炭鉱が切り捨てられ、三〇年後また民活路線でJRへの採用率七％ということになり捨てられ、筑豊は日本の経済・政治のゴーストタウンになっていきます。その中で筑豊闘争団は「楽しく・面白く・激しく」を合言葉に、争議の鉄則である、組合員は常に同一場所に集まり、意志統一し、そして行動

して、総括でき得る状態を目指すために、行商物販の道を選択し、毎日ゼンリン地図を片手に一日一五〇軒の玄関を一軒一軒尋ねて、チラシとラーメン二〇個の販売を目標に地をはいつくばって頑張っています。さらに、国鉄闘争を本州へ広げるためにワゴン車三台を購入して、東海・関西地区にほぼ一ヶ月間常駐(専任配属)して直販と「テンフォーズ運動」としてカタログ通販を展開しています。又、闘争団が当初発足した時、国労本部は今後の運動は、指令・指示待ちの運動ではなく闘争団が自主的に運動を作って行かなければならないと提起しました。それを受けて筑豊闘争団

は、全ての運動の主戦場は東京であると確信して、筑豊闘争団が東京で運動展開できる土壌を作ってゆくために運動を創ってきました。そして、今年の二月に「国労筑豊闘争団を支える東京の会」を結成してもらえ運びになりました。

### 「アクティブ企画 ふくちゃん」設立

以上の二年間の地元・全国へ駆け回ったの物販行商や各種アルバイトの経験が実を結び、長期態勢に備えた会社設立をやり遂げました。六月二二日には、地元筑豊は勿論のこと全国各地から力強い多くのご支援を受け、さらに一〇六本、一五三件の地労委命令を背景に

解雇撤回・JR復帰を目指す新たな砦が誕生しました。筑豊闘争団による「有限会社アクティブ企画ふくちゃん」アクティブは活発な行動を表し、ふくちゃんは福智山から筑豊をイメージしたものです。社員は五〇人、社員一人当たり六万円を出費し、資本金三百万円で有限会社「アクティブ企画ふくちゃん」を設立しました。このアクティブ企画ふくちゃんは、相互扶助を前提に組合員が出資し、運営し、労働するワーカーズ・コレクティブで有ります。そして、全国へ一口一万円の援助者、援助団体を要請し、運動的に財政的に国鉄闘争を横へ拡げる為に取り組んでいます。アクティブ企画ふくちゃんの事業内容としては、当初ラーメン店・明太子製造などを計画していましたが、五月二八日「加害者を免罪し、被害者を断罪する」中労委の解決案が出され

たのを機会に、新たな体制を確立するため早急に事業内容をしぼり込み、滋賀の清掃会社の協力でビルメンテナンスを主力業として発足することを固めました。又、直方の現地にきてもらい清掃器具の購入から仕事探しまでご援助をしてもらっています。同時にグリーンメンテナンスも並行しながら事業の充実に努めています。さらに加工食品の販売や、飲食店経営なども業種に加えていく方針です。

### 初心忘れず

国労闘争団による会社設立は、北海道に三社・九州に一社の四番目の長期の闘いに備えた自活への会社設立です。私も筑豊闘争団は、長期になろうとも「初心を忘れず」人間の基本的人権と民主主義を奪い去った不当労働行為を許さず全面勝利まで闘い抜く決意です。今日まで物

心両面にわたるご支援とアクティブ企画ふくちゃん設立に向けての援助金に對してご協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

3頁より 訴えから始まって原水禁運動が自ら戦争の加害責任を問う方向に踏み出したこと、あわせて大会が「世界の被害者と連帯し、第二回各被爆者世界大会(ベルリン)を成功させよう」(スローガン)と確認した事実が注目される。内外の声に促されて広島、長崎両市長宣言が加害者責任をそれなりに言明した日、余りに無内容な宮沢首相挨拶と連合「フォーラム」はまるで霞んでしまつて、政治の焦点にもならなかった。原水禁と長崎の市民グループが共済した八・八講演会に金さんが挨拶に立って拍手につつまれた姿に私たちは明日を確信する。